

かわさきTMO通信

＜毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2012年4・5月号 No.41

- 24年度事業の概要
- 駅東口地区来街者の意外な傾向
- 事務局たより

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：副会頭 深堀和子
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2012年5月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-540-3904
 FAX：044-540-3900
 Email：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇二十四年度事業の概要

かわさきTMOの平成二十四年度の事業が決まりましたので報告します。本年度も基本的に五つの部会が中心となり事業活動を行ってまいります。また、部会以外の活動は、事務局が担当し、役員会での議論を踏まえて進めてまいります。では、本年度の活動を部会ごとに報告していきます。

商店街協定部会（武藤聡宏部会長）は、二十三年度にまとめた「商店街協定」の具体的な実行に入ります。特に、はみ出し陳列、はみ出し看板、客引き行為などの来街者に評判の悪い駅前商業環境の是正に取り組みます。他にも放置自転車などの協定調印商店街ごとに抱える課題についても、対応していくこととなります。

回遊性部会（小林二三部会長）は、当該地区を歩いて楽しい空間づくりを目指しており、昨年度より街なかのオープンカフェの可能性を検討しております。本年度は公道上のオープンカフェと公開空地上のオープンカフェの実験を試みます。これらは、富士見公園へのアクセスを創りだす仕掛けとなるものです。また、回遊性を高めるための仕掛けとしてのタッチラ

リーを行い、商工会議所と共同で電気自動車の回遊性創造を検討します。

イベント部会（大西直治部会長）では、イベントサミットを開催し、フェスティバルなかわさきにおいて共同PR事業を推進し、連連つながるかかわさきを主催します。これらは、様々なイベントの連携を図り、イベント効果を相乗的につくりだそうという事業であり、年々イベント相互の情報交換から10月に集中するイベントの共同での広域広報が定着してきています。さらに、イベントの効果測定実験的に行います。

提言部会（戸村正房部会長）では、国際化に関して提言を行います。昨年度のシンポジウムやアンケートの成果をさらに掘り下げ、具体的な提言に結び付けていきます。また、昨年度行った提言である「川崎駅南口改札設置要望」及び「大型バス駐車場設置要望」を実現に向けて進めるための方策を他の機関とも図りながら検討していきます。

地域共同販促部会（笹原克部会長）では、昨年度調査した川崎駅周辺に立地する「老舗（創業五十年以上）」をマップ化し、広く来街者などにPRし

ます。当該地区に老舗が数多くあることを広報し、川崎駅周辺地区の街の環境イメージを形成することを目的としています。また、昨年度毎日映画祭において行った大型店と商店街との共同PRを本年も行う予定です。

事務局及び役員会を通して進める事業としては、役員会で提案された「防災対策」の検討を行います。先の3・11のような大規模な災害震災に対して、当該地区の商店街、大型店で来街者が被災者となる場合の対応を検討するものであります。また、例年の「通行量調査」も行います。さらに、TMOの組織の自立化に向けた検討を行います。TMOは現在任意団体として活動しておりますが、法人化の検討、また財源確保の検討などTMO活動が継続的に進めるための組織体制づくりを図ってまいります。

このようにTMOの活動が毎年毎年大きくなっており、またTMO活動が広く認知されている状態ではなく、今後のより幅広い活動のためには、積極的にTMO活動を知ってもらう方策をあわせて行っていききたいと考えております。

（タウンマネージャー 笹原克）

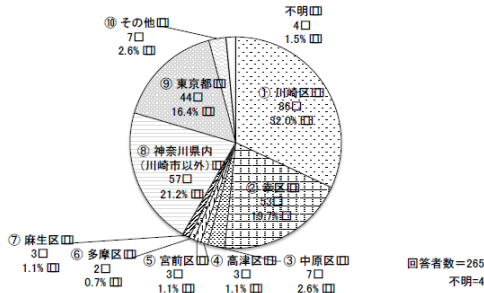
◇駅東口地区来街者の意外な傾向

今年の二月十一日及び十二日、十三日の三日間で川崎駅東口地区の来街者に対するヒヤリングアンケート調査を行い、延べ二百六十九票の回答を得ました。調査結果は、TMO通信40号で概要を掲載しましたが、詳細はTMO活動報告書にのせております。その中でいくつか興味深い結果について考えてみたいと思います。

最も意外であったのが、川崎駅東口商業地区の商圏です。回答者の十六%が「東京都内」からの来街者であり、「川崎市以外の神奈川県」からの来街者が二十一%あり、この両地域からの来街者を合わせると東口地区来街者の三十七%と1/3以上を占めていることです。この数字は、通常の間からいうと相当に高い数字が出ており、周辺都市からの来街者が東口地区にきていることがわかります。駅西口のラゾーナが広い商圏を形成していますが、駅の東西で広域からの集客（来街者）があることがわかりました。

一方、川崎区内が三十二%、幸区内が二十%となりあわせて五十二%で半数となりました。この数値は想定される数値と言えますが、川崎区、幸区

以外の市内からの来街者は、合わせても七%とかなり低い割合にとどまっております。市内の中原区（三%）、高津区（一%）、宮前区（一%）、多摩区（一%）、麻生区（二%）の来街者は少なく駅東口地区の商圏となっていないという結果になりました。この結果は、来街者からの居住地から判断した結果であり、本年度もより精度を上げてヒヤリングアンケート調査を行う予定です。



もう一つ、今年の通行量調査ですが、例年通り三月一日、四日の二日間で行われました。その結果は、速報として

TMO通信特別号NO4でお知らせし、全体の結果は、TMO活動報告書に掲載されています。さて、今年は、東口駅前広場の平面横断の影響が大きく出ました。石敢富前が五万三千二百（平日）、駅広中央横断歩道が二万四千三百と大きく通行量が増えています。この影響を大きく受けているのが、アゼリア中央通路1で二万三千二百（四十七%減）、アゼリア中央通路2で一萬七千一百（四十四%減）、アゼリア市役所ロード一萬四千五百（三十%減）です。アゼリアについては、平面での横断が可能となることで十分に予想されたことですが、日航ホテル前の通行量が一万二千一百と前年に比べ六十一%減と大幅な減少となり意外な結果がでました。つまり、前年の四割の人しか通行していないということ、この影響は大きいと予想されます。その原因については、様々なことが考えられますが、平面横断の影響を受けたことのほか、交番の立地が日航ホテル側への横断をわかりにくくしていることも考えられます。日航ホテル側で大きく人の流れが変わってきています。

（タウンマネージャー 笹原克）

◇事務局たより

この四月より新年度となり事務局体制が若干ですが変わりました。これまで、事務方を担っていました吉田さんが退職され、新しく六反さんが事務方を担当いたします。平素、TMOの連絡やご案内などの窓口となりますので、皆様よりしくお願いいたします。

TMOの事務所は、現在川崎商工会議所の中におかれています。すでにご案内申し上げておりますが、商工会議所は駅前に新会館を建設中で、今年の七月末に竣工予定となっております。この工事期間中は、西口のソリッドスクエアビル内に入っておりますが、新会館完成後の八月には、新会館に入ることとなります。より駅前に近くなりますので、気軽にお立ち寄りください。

「今年度から事務局を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。生まれは遠く関西ですが、これからの人生では、川崎の街との縁を大切にしていきたいと思っております。ろくたん、という珍しい名字だけでなく、皆様にしつかりおぼえていただきたいと思いますので、どうぞ、厳しく指導ください。」

（事務局 神谷 修）